



市史へんさん

第249号

令和元年12月1日
小松市史編纂事務局
へんさんだより

早いもので、今年も師走を迎えました。寒さが日に日に増し、暖かさが恋しい今日この頃です。

先月、天皇陛下による大嘗祭(ダイジョウサイ)が執り行われましたが、大嘗祭とは即位後、始めて行う新嘗祭(ニケサヒ)を指します。この新嘗祭は、現在、勤労感謝の日に替わり、神社では新穀収穫を感謝する神事が行われます。

小松天満宮では、菅原道真公が祭神であることから、亡くなられた25日に菅公のお気持ちをお慰めする新嘗祭由来の「お火焚き神事」を行っています。当日、宮司によるたいまつ灯火、菅公の漢詩の読み上げ、そして梅の枝で焚く新米のお粥が配られます。お粥には無病息災の御利益が、燃え残りの梅の枝は雷や災難除けになると言います。今年一年を感謝し、ご利益が来年も訪れますよう、皆様にはよいお年をお迎えください。

『新修 小松市史 資料編16 教育』見どころ(第8章)

近年の教育界の改革として注目されたのが、昭和50年代から平成10年頃までの「ゆとり教育」、「学校5日制」の導入である。その資料は、第8章「個別化・多様化する教育」に掲載される。

昭和43・44年の学習指導要領改訂で、教育内容の現代化が推進され、いわゆる、「おちこぼれ」を生み出した。第1節には、その改善策として、学校裁量の「ゆとりの時間」が設けられ、各学校の創意工夫を生かす活動を紹介する。第2節では地域の教育力を取り上げ、「いじめ」などの問題が多発する中、学校現場ばかりでなく、家庭、地域との連携で解決していく様子を、当事者が原稿投稿された校誌、報告書等から見ていく。



現在も「地域の教育力」は重要な要素の一つですが、特に、生徒の心のふれ合い、生徒個人の人格の尊重、家庭機能の回復は強く叫ばれ、三つ巴で議論を交わして来ました。下記にその事例の一部を紹介しますが、当時の活発な意見交換の様子を窺い知ることができます。この地域力は、現在も大きな力となって、子供達の成長につながっています。



昭和五十九年八月

学校は家庭機能回復の先導者に…

「教育こまづ」第一九五号

少年非行の原因は、〈中略〉学校や教師に対する不信任感が想像以上に強いからである。〈中略〉

家庭の教育機能の低下が進むにつれて、その欠落部分を学校が補うというパターンで進められてきた。家庭がなすべき子どものしつけを、学校が代替するという類である。

基本的な生活習慣にまでこまごまと画一的に規制せざるを得ないのは家庭の教育的機能が、何等かの形で崩れつつあるからである。〈中略〉家庭の機能を復活させる努力(援助)を、地域社会の先導者として行う…。

平成二年四月

「丸坊主」規制解除

「松陽」第三九号

生徒一人一人の人格や人間性を尊重するという観点から、身体の一部である髪に対して、坊主頭とする規定は人権の侵害にもふれる問題〈中略〉家庭や保護者がその責任者として、もつと前面に立つべき…〈中略〉他校にさきがけ先駆的なとりくみをした私たちは、誇りと責任をもって新しい時代と歴史の一ページを創りだしていきたいと思います。〈後略〉



『考古編』の執筆も佳境に入っていますが、その中、この編纂事業に伴って実施した潟湖の地形解明調査の成果を市埋文センター主催のシンポジウムで紹介されました。この中で、「小松市の成果報告」として、小岩直人弘前大学教授と榎田誠市埋文センター所長から加賀三湖と八日市地方遺跡の報告がありました。地形の年代的な推測は、前号の「へんさんだより」で挙げましたが、八日市地方遺跡の全貌については、「埋積浅谷(マヒセソク)」という新しい視点から遺跡の盛衰を推察しました。その概要の一部を下記に紹介します。

「埋積浅谷」とは、八日市地方遺跡の中央に流れる河川跡のことで、河川は集落を挟み、緩やかに蛇行しながら北東から西南西方向に流れており、全体幅は最大で 60m を越えところがあり、内部で何度か流れを変えて蛇行した複数の経路で構成されていました。この河川跡から出土の、いわゆる「河川出土資料」は、考古学では、流れにより攪拌され、時期の混入や混在が不安視されます。実際、八日市地方遺跡では、木製品を始めとする膨大な出土品が、この「埋積浅谷」から出土しますが、集落の存続期間には、そこに川が流れていたことは事実であり、河川をはさんで大集落であったことに間違いはないのです。集落が存続する間は、梯川本流の氾濫による被害は多少あっても、押し流されるような氾濫は抑制され、海水準が上昇するに伴い、川底のレベルは徐々に上昇し、まさに、「埋積浅谷」として 300 年の間に次第に埋まっていったのです。

こうして、「埋積浅谷」の河川としての機能が失われて来ると、八日市地方遺跡の集落もまた解体へと進んでいきます。文化交流を重点とする港津機能を備えた初期農耕集落の適地として、この地が純粋に選定され、古墳時代の道筋が始まると、拠点集落としての役割も終わりを告げます。

「埋積浅谷」の詳細については、『考古編』で、ぜひお読みください。



八日市地方遺跡は、愛知県朝日遺跡と双璧をなす、弥生時代中期の大規模拠点集落です。

<事務局 11 月の活動状況>

- ・ 11 月 3・9 日 北海道移植者調査
- ・ 11 月 10 日(日) 考古部会
- ・ 11 月 23 日(土) 赤瀬町町有文書資料調査
- ・ 11 月 30 日(土) 小松町会議案・町報資料調査
- ・ 11 月 30 日(土) 財政資料調査
- ・ 11 月 30 日(土) 近現代部会

<事務局 12 月の活動予定>

- ・ 12 月 1 日(日) 小松町関係記事調査(県立図書館)
- ・ 12 月 14 日(土) 通史(生活文化)部会
- ・ 12 月 22 日(日) 考古部会

<12 月のカレンダー> 開室時間 10:00~17:00(火~金)/9:00~17:00(土)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1/1	1/2	1/3	1/4

*  は小松市史編纂事務局が閉室しています。

小松市史編纂事務局 (小松市立図書館 2 階)

・ 住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町 19 芦城公園内

・ TEL 0761(24)5315 ・ FAX 0761(22)9763

・ E-mail hensansitu@city.komatsu.lg.jp

・ URL <https://www.city.komatsu.lg.jp/soshiki/toshokan/shishihensan/index.html>

